



オルロフスキー公爵
エミリー・フォンズ
メゾ・ソプラノ

モーツァルトやバロック音楽をはじめ、ロッシーニや、さらに後代の作曲家の解釈に優れた才能を発揮し、聴衆や評論家に等しく感銘を与えている。

今シーズンは《チェネレントラ》のアンジェリーナでアトランタ・オペラ、《ヘンゼルとグレーテル》のヘンゼルでカナディアン・オペラ・カンパニー、《セビリヤの理髪師》のロジーナでサンディエゴ・オペラ、《アリオダンテ》のタイトルロール（CD発売予定）でゲッティンゲン国際ヘンデル音楽祭に再登場する。また、フロレンティン・オペラでソロ・リサイタルも行う。

昨シーズンは《フィガロの結婚》のケルビーノでサンディエゴ・オペラに再登場し、《The [R]evolution of Steve Jobs》のLaureneでシアトル・オペラにデビューし、続いて夏に《リゴレット》のマッダレーナでも出演。《ヘンゼルとグレーテル》のヘンゼルでミシガン・オペラ・シアター、《ポッペアの戴冠》のポッペアでセントルイス・オペラ・シアターにも出演した。

2017/18年シーズンは、ノース・キャロライナ・オペラで《コールド・マウンテン》のルビー、ケンタッキー・オペラで《デッドマン・ウォーキング》のシスター・ヘレン・プレジャン、ベルリン・フィルとの共演で《子どもと魔法》のタイトルロール、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトで《子どもと魔法》の子どもと《ジャンニ・スキッキ》のチェスカを歌い、演奏会ではロサンゼルス・フィルの《真夏の夜の夢》に出演した。

16/17年シーズンは、リール歌劇場で《チェネレントラ》のアンジェリーナ、オペラ・オマハで《コジ・ファン・トゥッテ》のドラベツラ、フロレンティン・オペラで《ドン・ジョヴァンニ》のドンナ・エルヴィーラ、ボストン・リリック・オペラで《フィガロの結婚》のケルビーノを歌い、演奏会ではフランツ・ヴェルザー=メスト指揮/クリーヴランド管の《真夏の夜の夢》に出演した。